令和６年度　学　校　評　価　【計　画　書・報　告　書】

加賀市立河南小学校 校長　三星 由紀子　印

学校教育ビジョン	〈めざす児童像〉	〈めざす教師像〉
◎校訓　「信」 ◎学校教育目標 「私もみんなも幸せな未来を拓く主体的な児童の育成」 ～すべての児童がそれぞれに「自律できる」ことをめざして～ ◎重点目標 「『子どもに委ねる学び』を通し、すべての児童の主体性を育む」	○学びを楽しみ、学びを生かす子 ○「おあしす」の心にあふれ、人との関わりを大事にする子 ○心と体を鍛え、最後までやりぬく子	○授業を大切にし、児童とともに学び、チャレンジする教師 ○児童の良さを認め、励まし、伸ばす教師 ○明るく笑顔！コミュニケーションを大切にする教師

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考			
①教育課程・学習指導	子どもに委ねる授業作りを通して、確かな学力の定着を図る。	・単元設計を工夫し、習熟時間を確保する。 ・適用題や協働的な学びの場を工夫する。	教務	「はなまるスタイル」や「ふ＋80」の取組により、思考力・判断力・表現力等は身についてきたが、知識・技能の定着が十分とはいえない。	（成果指標） 主体的に学びに向かい、確かな学力を身につけている。	国語・算数の単元評価テストでの平均点が80点以上の児童が A　80%以上　　B　70%以上 C　60%以上　　D　60%未満	単元評価テストでの平均点（1，2学期末）で評価する。			
	子どもに委ねる授業作りを通して、主体的に学ぶ児童を育てる。	児童が問いをもち、協働的、探究的に課題を解決していけるような単元設計を行う。児童と教科や学び方の目標を共有し、振り返る。	研究	学習の「はなまるスタイル」が定着してきており、授業が楽しいと肯定的にとらえる児童が増えてきた。	（成果指標） 主体的に学習に向かっている。	「？の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」と答えた児童が A　90%以上　　B　80%以上 C　70%以上　　D　70%未満	児童アンケート（1，2学期末）の項目で評価する。			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	縦割り活動・異学年交流や「ほめる・認める・任せる」教育を行い、誰もが充実した学校生活を送る。	児童の実態に応じて縦割り活動や委員会活動を充実させ、教職員が「ほめる・認める・任せる」を意識した指導や価値づけを行う。	児童会	「自分に良いところがある」と答える児童は1学期が62%、2学期が53%であった。肯定的回答という視点で見ると1学期と2学期共に86%であった。	（成果指標） 自分には良い所があると感じている（自己肯定感を持っている）。	「自分には良い所がある」と答えた児童が A:90%以上　　B:80%以上 C:70%以上　　D:70%未満	児童アンケート（1，2学期末）の項目で評価する。			
	いじめの認知及び解消件数を増やし、安心安全な学校風土の醸成に努める。	教職員のいじめに関する感度を高く保ち、情報共有に心掛け、いじめの早期発見・早期対応に努める。	生徒指導	昨年度のいじめの認知は9件であった。認知することでいじめ対策委員会を開き，迅速かつ組織的に対応することができた。	（成果指標） 学校全体が積極的にいじめを認知し，組織的に対応している。	いじめの認知件数が A　20件以上　B　15件以上 C　10件以上　D　10件未満	いじめの認知件数（1，2学期末）で評価する。			
③キャリア教育・進路指導	夢や目標をもち、様々な行事や活動に積極的に参加し、自主自律の精神と態度を養う。	キャリアパスポートを活用し、将来の夢や目標だけでなく、短期・中期（学期・年間）の目標設定をして振り返る。	キャリア	行事や学習活動に意欲的に取り組む児童が多い。夢や目標に向かって努力し、達成感を味わえるようにしたい。	（成果指標） 夢や目標をもって、一生懸命取り組んだと感じている。	「夢や目標に向かって、一生懸命取り組んだ」と答えた児童が A　90%　B　80% C　70%　D　70%未満	児童アンケート（1，2学期末）の項目で評価する。			
④保健管理	元気の源である歯の健康について理解を深め、歯の健康推進に努める児童を育てる。	食後の歯磨き・うがいを奨励するとともに、年2回の歯磨き週間の取組を通して食後の歯磨きなどを習慣化させる。	保健	昨年度は、給食後の歯みがきを実施しておらず、自主的に歯みがきをする児童はほとんどいなかった。	（成果指標） 歯みがき週間で給食後に歯みがきをすることができる。	給食後に歯みがきすることができた児童が、 A：90%以上　B:80%以上 C：70%以上　D:70%未満	歯みがき週間（6月・11月）の歯みがきカレンダーの項目から評価する。			
⑤安全管理	防災への意識を高め、具体的な行動につなげることができるようにする。	避難訓練の際には、いざという時にどのような行動をとるべきなのか考えさせ、命を守る行動ができるようにする。	教頭	訓練の際は、「おはしもち」を守り、地震訓練では頭を守る行動ができていたが、日ごろからの地震や火災への備えを家族と話し合うことについては不十分である。	（成果指標） 自分で考えて、命を守る行動をとることができる。	訓練の際に、命を守る行動をとることができた児童が A　90%　B　80% C　70%　D　70%未満	訓練終了後に児童アンケートを実施する。			
⑥特別支援教育	学校全体で適切な支援や配慮を行い、すべての児童が学びやすい学校環境を整える。	校内特別支援委員会を中心に、専門機関の協力を得ながら、全体や個に応じた支援や配慮を組織的に行う。	特別支援	児童理解に全職員で取り組んでいる。個に応じた支援や、友達と協働的に学ぶ授業設計を組み立て、誰一人取り残さない授業を心がけている。	（努力指標） 全体や個に応じた有効な支援に取り組む。	全体や個に応じた有効な支援に取り組むことができた教職員が、 A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	教職員アンケート（1，2学期末）の項目で評価する。			
⑦組織運営・業務改善	教職員の働き方改革を推進し、時間外勤務時間を年360時間以下（月平均30時間以下）をめざす。	定時退校日と平時退校時間を設定し、効率的・効果的な働き方を推進する。	教頭	昨年度、1月45h超が年間で6回が1人、4回が1人、2回が2人、1回が1人であった。7回以上超過した職員は0であったが、年間360時間以上の職員が4人（約31%）であった。	（成果指標） 超過勤務時間が1月に45時間以内を6回以上かつ年間360時間以内を達成できたか。	超過勤務時間が1月に45時間以内を6回以上かつ年間360時間以内を達成した職員が A　100%　B　80% C　60%　D　60%未満	勤務時間記録で評価する。			
⑧研修	適切な研修を計画的・意図的に実施し、教職員の資質能力の向上に努める。	県教員総合研修センターのサポート訪問を活用するなど充実した校内研修を年間を通じて実施する。	教務	小規模校であるため、同学年での教材研究ができない。放課後の教材研究する時間が確保できるようになってきたため、この時間を有効活用できるようにする。	（成果指標） 教師力向上と人材育成を視野に入れた効果的な研修を、積極的に企画・立案・実行し、学んだことを活かす。	校内研修、若プロなどで学んだことが学級経営や授業づくりに役立ったと回答する教員の数が、 A：10人以上である　B：9人以上である C：8人以上である　D：8人未満である	教職員アンケート（1，2学期末）の項目で評価する。			
⑨保護者，地域との連携	学校運営協議会（コミュニティスクール）との連携を深め、地域とともにある学校をめざす。	コドモン、ホームページ等を活用し、お便りや映像などで情報提供を行う。また、保護者・地域と連携した教育実践を行う。	教頭	昨年度は、体育の水泳、家庭科、総合的な学習、特活、クラブ活動、お話ボランティアなどにおいて外部人材を生かした取り組みを進めた。今年度は親子活動計画を作成し、開かれた学校を推進していく。	（満足度指標） 外部人材などを生かした取り組みを進める。	外部人材を授業などに効果的に生かすことができた職員が A　80%　B　70% C　60%　D　60%未満	保護者アンケート（1，2学期末）で評価する。			
⑩教育環境整備	学びの場を工夫しやすいよう、校内環境を整備する。	整理整頓を心掛け、机の配置など、児童が学びやすい場を工夫できるように校内環境を整える。	環境 事務	古いものの廃棄を進め、空き教室や物置などの物がすくなくなり、すっきりしてきた。	（努力指標） 学びの場を工夫しやすいように、校内の整理整頓にを掛ける。	学びの場を工夫しやすいように、校内の整理整頓を心掛けた職員が A　80%以上減　B　70%以上減 C　60%以上　D　60%未満	教職員アンケート（1，2学期末）の項目で評価する。			

学校関係者評価	